

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400013		
法人名	社会福祉法人 双葉会		
事業所名	双葉会高齢者グループホーム双壽園		
所在地	阿南市見能林町南林258-5		
自己評価作成日	平成29年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年11月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山崩れのない、洪水のない、津波のない、小鳥と共生の園舎で、自然な家庭の日常生活の中で、地域と喜びを共有し、生活を活性化させ、安心と安定を図り生き生きと仲間と老いを楽しく暮らしている。また、利用者と職員が、共に笑顔の絶えない生活を送れるように努めている。双葉会は、防災に力を入れ職員全員で取り組んでいる。又 地域の自主防災会に参加するとともに、独自でも自主防災会を作っている。双葉会は、地域の避難場所になっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に海水浴場や松林の広がる国定公園の高台に位置している。小鳥のさえずりや温かい陽射しに包まれる環境のなか、利用者は穏やかでゆったりとした時間を過ごしている。事業所独自の理念と四つの心得を掲げ、利用者一人ひとりを尊重した支援に努めている。地域住民やボランティアとの交流も活発で、利用者笑顔をともしる機会を多くするよう工夫をしている。また、「ほっこりカフェ」を開催し、地域住民の認知症に対する理解の輪を広げている。遠方で暮らす家族の方には、利用者の事業所でのようすを書き留めた「鳩の便り」を送っており、好評を得ている。近隣には同一法人の運営する他サービス事業所が多数あり、災害時の福祉避難所として指定を受けたり、独自の自主防災会を作ったりしている。地域住民の一時避難場所としての指定を受けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 双葉会高齢者グループホーム双壽園	理念を共有する為、職員会や、勉強会、申し送り時等に理念について話し合い、振り返っている。	事業所独自の理念として、「無条件の尊重」「四つの心」を掲げ、職員は理念を支援の原点と位置づけ、日頃の支援に取り組んでいる。新規採用職員には、勉強会等の機会に理念について話し合い、職員間で共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会、防災訓練では、地域住民に参加を呼び掛けている。また、併設された、施設での、ボランティアの来訪時に参加し、交流を図っている。地域の文化祭へも出展し、見学にも行っている。	事業所では、避難訓練やボランティアの受け入れなどの機会に、積極的に地域住民と交流を図っている。地域の文化祭に利用者と職員で創作した「おみこし」を出典したりして、地域とのつながりを大切にしながら参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として開催しているほっこりカフェ(認知症カフェ)を企画し、また認知症サポーター養成講座も開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催し、事業所の運営状況や運営計画、サービス利用の状況等を報告している。問題点や課題に対し、それぞれの立場からの意見交換を行い、サービスの質や向上に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。家族や地域住民の代表者、市担当者等の出席を得ている。議題にそって意見交換や改善課題を話し合っている。出された意見について職員間で話し合い、運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会や、市へ毎月の提出書を提出の際に事業所の取り組みや困難事例について報告、相談を行い助言をいただく事で協力関係の構築とサービスの質の向上に努めている。	日頃から管理者は、市担当者を訪問して実績報告書を提出している。その際、事業所の運営や困りごとなどについて相談や要望、実情を伝えている。困難事例の発生時には、そのつど電話で連絡するなどしており、密に連携を図るよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や勉強会の際にマニュアルをしながら身体拘束について話し合い理解を深めている。利用者の特性を把握し、起こりうる問題について検討を重ねている。	事業所では、拘束の廃止に関するマニュアルを作成している。職員研修の機会を設け、拘束の具体的な内容の理解や廃止に向けた取り組みについて共有化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会、職員会議で取り上げ対応方法を検討している。マニュアルも作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを通して職員会、勉強会で勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書に基づき、十分な説明を行い理解し、納得していただき署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞くように努め、日頃から気軽に話せるような関係作りに努めている。出された意見や提案等は職員間で話し合って質の向上や施設への信頼関係が深まるよう取り込んでいる。	事業所では、利用者や家族が意向を表出しやすいような雰囲気づくりを行っている。また、月1回、家族が利用料の支払いに来訪した際には、職員から積極的に話しかけるようにし、意見や要望、相談に応じたりしている。意見箱も設置して、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や、管理者は毎日のミーティングや、勉強会を通して、職員の意見や、提案、不満等気軽に話せる様な雰囲気作りを行っている。また、一人ひとりと個別な対話を行い職員の意見を取り入れるよう努めている。	代表者と管理者は、職員との個別面談の機会を設けている。日頃の業務を通じて職員の意見や要望を把握するよう努めている。把握した職員の意見等を運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の業務内容や努力、成果を把握する事で適切な評価を行い、やりがいのある職場環境作りに取り込んでいる。資格取得に関しても法人内勉強会や外部研修の参加を行いバックアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の知識や技術が向上するよう研修会や会議を開催しており外部研修へも受講できるよう支援を行っている。参加者は伝達を行い事業所全体のスキルアップにつながる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿南市の実施する地域密着型サービス事業所研修会で同業者と交流情報交換を行い、サービスの質向上につなげている。又、当法人の他事業所とも交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時にご家族と一緒によく話を聞く様にし、お互いの理解を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時など、十分な話し合いによりご家族の気持ちや求められている事を受け止めるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談で生活状況を把握しながら本人の要望、不安に思っている事を傾聴する事で思いを受け止め安心感を与えられるよう又早い段階で信頼関係が構築できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊重しながら、利用者の得意、不得意等を把握しながら、出来ない事を一緒に行ったり利用者同士が共に支え合い協力して生活していけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から本人の様子や思いを報告する事で連携を密にし、家族の絆を大切にしていたきながら介護についても共に協力関係が築けるよう取り込んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族とのやり取りの中から交友関係やご近所、親戚の方等を把握し、いつでも気軽に施設に訪訪していただけるよう支援を行っている。	同一法人の運営する併設の他サービス事業所の利用者との交流を支援している。地域の公民館に出かけ、家族の命日には、家族の協力を得た上で、お墓参りなどを支援している。また、近所や親戚などこれまでの馴染みの関係を継続できるように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「いつもみんな家族」をモットーにしている。それぞれの良いところを皆さんに伝えてあげることで、それぞれが認め合い、孤立のないように努めている。又顔を見て会話が出来るようにテーブル等配置を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの暮らしの継続性が出来るように生活環境、支援の内容など必要に応じて情報提供を行っている。また、本人や家族にはいつでも相談に応じる事を伝えている。		/	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や意向を本人、家族からの情報により把握し本人が望む生活への支援を心がけている。意向を伝えきれない利用者においては表情、言葉、しぐさなどから思いをくみ取る様にしている。		事業所では、日頃の利用者との関わりや家族との話し合いのなかで、一人ひとりの意向や希望を把握するよう努めている。意思の表出が困難な利用者には、日頃の支援のなかで一人ひとりの言葉や表情の変化等から意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮を行いながら本人、ご家族、前任のケアマネージャー、知人等から協力をいただいて情報を把握するよう努めている。		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア会議、申し送り等で、一人ひとりの状態や変化等を話し合い、共有し把握に努めている。		/	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の状態の変化に対応できるようご本人や家族の思いを踏まえながら毎日のミーティングや職員会議で話し合い、介護計画に反映させている。		事業所では、本人や家族の要望をサービス担当者会議で話し合い、その人らしい暮らしを続けるための介護計画書を作成している。3か月に1回、介護計画を見直している。また、利用者の状態変化に応じて随時の見直しを行うなど、現状に応じて柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にその日の身体状況、様子、発した言葉等により職員の気づき等を具体的に記入し介護計画や評価に活かせる様ミーティングやケア会議で情報を共有しながら話し合っている。		/	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人の他事業所での催しに参加してもらい、その友人等と交流してもらおう機会を作っている。また、その人が望むこと(趣味など)に、できるだけ対応出来る様に努めている。		/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域包括支援センターの職員、地域住民の協力を得ながら連携を図り利用者が安心、安全に在宅生活を継続出来るよう支援を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一回協力医の往診、かかりつけ医への受診等、その都度全体の病気、健康管理等の助言をいただいている。	本人や家族の希望する協力医療機関の医師による往診を支援している。家族と相談したうえで、歯科や眼科、皮膚科等の専門医療機関の受診も支援している。家族と密に連携を図りつつ、適切な医療の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を中心に介護職員も含め、ご利用者の日々の状態の変化に気を配り、変化が見られた場合は報告、相談を行い早期に対応出来る様にしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要に応じて情報提供を行い、医療機関と連携を図っている。退院後の受け入れ態勢についてもスムーズに在宅生活に戻ることが出来るよう支援を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ早い段階から重症化に至った場合の対応について事業所で出来る事、ご家族がどこまで協力できるか等検討を行い職員間で話し合い折々にご家族に確認を行いながらお互いが納得いくケアが出来るよう支援を行っている。	事業所では、本人や家族に重度化した場合や終末期の支援のあり方について早い段階で説明している。利用者の状況に応じて、本人や家族等と話し合いつつ対応方針の共有化を図っている。終末期支援にも取り組み本人や家族の意向を最優先とし、地域の関係者とともチームで支援する体制を整備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応方法についてマニュアルを作成し、勉強会や、ミーティングを通して全職員が周知徹底出来るようにしている。また、利用者の急変時等を想定し、かかりつけ医と相談して連携を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に地域住民の参加と協力を得て避難訓練を実施しており協力していただける事で地域住民との関係作りも構築できている。また、消火器や設備の定期点検や、非常時の食料、備品も準備し点検も行っている。	事業所では、年2回、独自の避難訓練を実施しており、消防署や地域住民の参加も得ている。地域とのつながりも深く、消防団や地域住民との協力体制を構築している。また、定期的に消火器や設備の保守点検を行っており、非常時の飲料水、食料、備品等も準備している。	事業所は、海岸に近く、周辺の道も狭く入り組んでおり、地域の人以外はわかりづらい。災害対策マニュアルを活かし、地域の防災拠点として、事業所独自の防災マップの作成が期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のミーティングや職員会議でプライバシーや尊厳について話し合っており日々自身を振り返りながら節度をもって細やかな対応や言葉かけが出来るように支援を行っている。	職員は、事業所の理念を意識して、日頃の支援を行っている。ミーティングや勉強会の際、職員間で尊厳や人権、プライバシーの確保について例を出して支援のあり方を話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりのこだわりや、思いを大切に、いろんな場面で選択肢の提案を行い自己決定出来るよう働きかけ意志表示が困難な方には表情やしぐさにより思いをくみ取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や、希望を考慮しながら個々のペースを大切に、休息場面を作る等個別の対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の衣服の着替え時にも本人のこだわりを大切にしながら支援を行っている。また、個別ケアとしてお化粧品や整髪等も行い、気分のリフレッシュや日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備では、盛り付けや、食器の片付け等を手伝ってもらい、おやつ作りでも、出来る事を手伝ってもらっている。	事業所では、静かな雰囲気の中、利用者と職員で食事の盛りつけや配膳をしたり、おやつを作って一緒に食べたりしている。職員は、利用者一人ひとりの力の発揮を見守っている。管理栄養士が利用者のアンケート結果を献立に反映している。	職員は、利用者がより家庭的で食事が楽しみとなるよう、利用者と一緒に食卓を囲み、同じ物を楽しく食べる工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態、体調に応じて食事形態を変えたり好みの物を提供し栄養バランスのとれた食事が提供できるように工夫している。水分補給もとり目を付ける等本人の状態に合わせて個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	折々に口腔ケアの重要性を口腔体操時にも声かけなどで行っている。個々の状態に応じたケアを行い、食後の口腔ケアも習慣となるよう本人の意向を尊重しながら清潔保持に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い一人ひとりのパターンを把握し活かしている。できるだけオムツを使わない様に支援している。	職員は、利用者の様子を見計らって声掛けを行い、トイレへの誘導を行っている。日中はリハビリパンツで、夜間は紙おむつを使用するなど、なるべくトイレで排泄することができるよう、一人ひとりに合った支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行運動などにより、体を動かす取り組みをしている。飲食物でも個々に合った形状や、トロミの工夫をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番。温度調整、入浴にかかる時間等、その都度希望を聞き、満足してもらえるように努めている。	事業所では週3回、入浴することができるが、その日の利用者の希望に応じて入浴することができるよう支援している。利用者の体調にも配慮し、清拭や足浴を行うなど入浴支援の工夫を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、また、その時々状況を見て休息を促す等の声かけをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬が変わった時は看護師から、薬について説明をもらい、皆が把握できるようにしている。その人に合った服薬介助をし、飲み込むまで付添確認をしている。主治医とも連絡をとりながら状態の変化等を報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物の片付け、食事支度、おやつ作り、活花、草抜き。花植え等、生活歴を生かした役割分担をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に基づき、園庭へ散歩に行ったり、氏神さんや近隣に出かけている。	事業所では、利用者の希望にそって、散歩に出かけたり、近所の神社へお参りに出かけていたりしている。移動販売車が来訪したときには、利用者にも買い物を楽しんでもらうなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解の元、施設より買い物やお出かけの際、小額の小遣いを所持していただき、買い物をしてもらっている。また移動スーパーでも、おやつを選んで購入してもらい、満足感や、楽しさを感じて頂ける様に支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族の希望に応じて電話や携帯電話の使用、手紙のやり取りは自由に行える事を伝えており、電話の際はプライバシーに配慮を行いながら席を外したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入換え、整理整頓を心がけたり、季節の花を飾っている。春はウグイス、秋は虫の声に耳を澄ませ広い庭での四季の移り変わりを楽しんでいる。	共有空間には、明るい陽射しが差し込んでいます。床暖房を整備し自然光や温度等にも注意しており、利用者が過ごしやすいように配慮している。壁面には、利用者が作った作品や写真を飾りつけている。時々、利用者が指揮をするなど、ピアノの音色が聞こえる居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い食堂や、広い廊下にあるソファや長椅子、大きい円形テーブルを置き、一人ひとりがくつろげる事が出来る空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身で作った手芸品や、いただいた手芸品を飾ったり、縫いぐるみ、時計、鏡台、タンス等自宅で使っていた愛着のある物を使ってもらい、落ち着いて過ごす事が出来るように支援を行っている。	事業所では、利用者の馴染みの調度品や家具、手芸品、時計等を本人や家族と話し合いを行ったうえで、居室に持ち込んでもらっている。鏡だけを持ち込む方もおり、その人らしい居室づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中が全てバリアフリーである。利用者個々に応じた環境調整についてミーティングで常に話し合いを行い、トイレや脱衣所等は利用者の目線で安心、安全に生活できるよう工夫している。		